

■鶴田錦史 天才琵琶師。幼くして人気得るも破綻し退場、実業界に入り、男として振舞って成功後、復帰し伝説化。

つるたきんし

大逆事件判決1911＝ 北海道の江部乙で、福岡県出身でリンゴ農園営む鶴田留吉・ヤヘノの次女に生まれる。本名は菊枝。姉・兄とは10以上離れる。戦を尊び開拓精神に満ちた“屯田魂”に揺すぶられる間もなく、

明治天皇没・1912＝ 1歳：

第一次大戦始1914＝ 3歳：この年基本特許が切れたレコードが一気に普及し始め、琵琶歌がブームとなって行くなか、

21ヶ条要求・1915＝ 4歳：農園経営が行き詰まり、一家で室蘭に移住、日本製鋼所の社員住宅に入るが、

本格政党内閣1918＝ 7歳：東京に出た兄諫美が永田錦心の琵琶に感動した近所の琵琶師小峰元水に入門した直後、父が死去。母らと兄の暮らす東京に出る。早速兄に連れられ琵琶を習い始めると、天才ぶりを発揮、稽古は嫌がるも、舞台での拍手喝采が快感で、

ベルシム条約・1919＝ 8歳：1年遅れで小学校に入学すると、学校でも先生たちに所望されて演奏、あちこちに呼ばれるようになる。

大暴落・・・1920＝ 9歳：兄が奥伝となり、鶴田厳水と号するとともに、自宅に{元水会支部}の看板。

原敬首相暗殺1921＝10歳：兄が錦心流の教師の資格を得て{厳水会}創立すると、兄の側で自らも弟子をとり始め、

水平社結成・1922＝11歳：*皆伝となった兄を師とし、授業料以上に、演奏会場掛けの売れっ子となって、家計の中心となる。

関東大震災・1923＝12歳：自宅を市電が通ることになり、震災直前、立退き料を手に一家で信州上田に移住、競争相手もなく、映画館での演奏が宣伝となって、弟子が集まり、一家は豪邸に住むに至る。収入は全て遊び人の兄が管理、卒業して、上田の女学校に入学。レコード「白虎隊」も発売され、奥伝となって鶴田厳水と号する。名古屋放送局開局記念番組に、浪曲の大家敷島大藏とともに招かれ、琵琶の弾初式を任される。錦心流の専門誌{水聲}の人気投票で、ほとんどが東京在住者のなか、全国6位。

金融恐慌・・・1927＝16歳：スーパースター永田錦心が死去して琵琶への人気が衰え始めるなか、派手な生活を新聞で追及された兄が東京に出た後、母と姪を連れて群馬県高崎に移住、兄の抑圧から解放され、最先端のおしゃれもするように、一人ではうまく行かなかった兄と合流し、上京。同年齢の美人琵琶師水藤錦穰に弟子入り、櫻玉となる。主役になれなくなる一方、錦穰が養父枝水とともに錦心流から追放されて琵琶界が分裂し、

満州事変・・・1931＝20歳：この年、半田多真美が弟子入り。トーキーの到来もあって、琵琶人気が一気に凋落するなか、

国際連盟脱退1933＝22歳：*正月恒例の集まりで、錦穰から居ぶ弟子らの面前で面罵されたのが引き金となり、春季大演奏会に兄と出演したのを最後に、忽然と消える。家族養うために弟子の稽古だけは続けるが、こっそり職業安定所に行き、午前中だけという職場に一時勤め、親分肌ぶり発揮し女工たちの組長になったことから琵琶以外の生活にも自信つけける一方、同年齢の美男弟子と結婚するが、夫の浮気を知って、出産した女兒を弟子夫婦にあげて、別れるつもりが、また身ごもったため、次に男児を出産すると、夫とその愛人に預けて、離婚。新興喫茶に勤め、事業のノウハウを蓄積、早くも自分の店を持ち、猛烈に働いて大繁盛、琵琶の業界紙からの非難に、ついに琵琶を捨てる。

帝人疑獄事件1934＝23歳：自信を取戻し、長谷川時雨が企画した大陸慰問団{輝ク部隊}に琵琶師として参加、戦場の実態も知る。

二二六事件・1936＝24歳：陸軍記念日の邦楽の会に出演し、錦穰と再会、日比谷公会堂での錦穰の演奏会では伴奏を引き受け、

日中戦争始・1937＝25歳：大東亜会館での錦穰の新作発表会では、「敦盛」を熱演して華を添える。

総動員+健保 1938＝27歳：大空襲で兄が死去、父母の郷里福岡県に疎開、敗戦直後、無傷のまま残った温泉街別府に乗り込み、借りた家をダンスもできるサロンに改装、進駐軍相手の水商売を始めるや大繁盛、そこで働かせていた女によって

日米開戦・・・1941＝30歳：かつての夫からの相談で、息子を引取るが、誘惑の多い環境は良くないと、福岡県の親戚に預け、

創価学会検挙1943＝32歳：多角経営を統括する{ユーカリ興業株式会社}を設立。朝鮮戦争が勃発するや、東京亀戸に営業所兼ねた豪邸を新築、池上近くにバーも開店。この頃、兄を追悼する会で1回だけ表舞台に立つ。

敗戦・・・1945＝34歳：東京進出を機に、男として生きようと、以後、没するまで男装、世間から男性と見られるようになる。

新憲法公布・1946＝35歳：母が死去。本社を東京に移し、亀戸にキャバレーをオープン、大映社長永田雅一らの支援得て大繁盛。

新憲法施行・1947＝36歳：

朝鮮戦争始・1950＝39歳：

独立回復・・・1951＝40歳：

メデー事件・1952＝41歳：

55年体制始・1955＝44歳：女を使う商売から抜け出そうと、亀戸駅前のバブ{芭蕉}を拡大、ナイトクラブ持つアミューズメント・ビルにする。有名ジャズマンや俳優も来店して有名店となり、高額納税者の常連にまでなる。*錦穰ら琵琶師に金銭的援助をして地位を高め、{錦びわ三十周年記念大演奏会}で琵琶界に男装で再登場し、聴衆に驚愕。{錦琵琶大演奏会}に出演、殿を務めて聴衆を感嘆させ、復活を確かなものにすると、

国連加盟・・・1956＝45歳：復権目論む水藤枝水によって、錦穰の弟子櫻玉の過去が消され、新たなスーパースター鶴田錦史となり、

なべ底不況・1957＝46歳：この頃、銀座の高級クラブのトップだった加藤幸子を引き抜いて事実上の妻とし、琵琶界に再デビュー。

イカサマ師・1958＝47歳：

安保闘争・・・1960＝49歳：

タイタイ病始・1961＝50歳：

結婚した息子を自分の戸籍に入れ、鶴田姓に。枝水による{秋の公演}後、岸・佐藤両首相の伯父池上作三主催の{名曲鑑賞会}で伝説となるような演奏を披露、日本琵琶協会の会長も耳に記憶。

全国総合計画1962＝51歳：息子が自らの琵琶の弟子に。琵琶界活性化のため枝水が企画した{琵琶祭り}の前哨戦で、自ら考案した電気振動マイクروفオンを装着し、大音量で響かせて、聴衆の度肝を抜き、本番では、史上初となるエレクトリックバンドとの共演で、自ら編曲した「曲垣平九郎」を演奏、自宅の道場も増築、琵琶と洋楽器のコラボレーションで「春の宴」を演奏して衝撃を与え、プロデュサー枝水も完全復活。オムニバス映画「怪談」の音楽担当武満徹が日本琵琶協会会長に相談したことから、作曲と演奏を依頼され、

TV宇宙中継始1963＝52歳：武満徹と運命的出会い。水商売から全面的に撤退し、戸籍上の名前も錦史に変え、完全に蘇生。封切られた「怪談」がカンヌ映画祭で受賞するなど国際的に注目され、

東京リビウ 1964＝53歳：若手育成のために{新樹会}を組織。武満徹「エクリプス」で、尺八の横山勝也と熟演して聴衆に感銘、小沢征爾を介してニューヨーク・フィルハーモニー常任指揮者バーンスタインに知られ、

大学紛争始・1965＝54歳：その創立125周年記念公演で武満徹の「ノヴェンバー・ステップス」が小沢の指揮で初演された際、バーンスタインの要請で、横山とともに出演して聴衆を感嘆させ、一夜にして世界的に知られる音楽家となる。

いざなぎ景気1966＝55歳：半田多真美が再び弟子入り、鶴炎となり、やがてその娘綾子が発見後最初の弟子になる。

美濃部都知事1967＝56歳：カナダのトロント交響楽団が来日した際、小沢指揮の「ノヴェンバー・ステップス」演奏終了後、楽団員と武満・小沢らを自宅に招いて盛大な歓迎会。以後「ノヴェンバー・ステップス」の海外公演は200回を超え、

震ヶ関ビル・1968＝57歳：大阪万博の鉄鋼館で発表されたクセナキスの電子音楽に参加し、自身の作曲「壇ノ浦」などを演奏。最後といわれた琵琶製作者石田不識が死去すると、その娘婿が後を継ぐように激励支援

全共闘ビーブ 1969＝58歳：芸術選奨文部大臣賞。

大阪万博・・・1970＝59歳：水藤錦穰が死去。

ドルショック・・・1971＝60歳：水藤枝水も死去。東京音楽大学講師となり、弟子も増え始める。

石油ショック1973＝62歳：モービル音楽賞。

角栄金脈辞任1974＝63歳：中曽根内閣

田中角栄逮捕1976＝65歳：勲四等瑞宝章。

革新大敗北・1979＝68歳：

中曽根内閣・1982＝71歳：

ドイツ・ユーロ・1983＝72歳：

・・・・・・1984＝73歳：

ジャンボ機墜落1985＝74歳：

それを補足する形で{季刊邦楽}に「嵐を生きる〜鶴田錦史の琵琶楽人生」が掲載される。フランスから芸術文化勲章コマンドールを贈られる。互いに全く知らない関係のジャズ界の新鋭で絶頂期迎えたキース・ジャレットとの共演が企画されたが、一瞬に共鳴して素晴らしいものになったりするが、

竹下内閣・・・1987＝76歳：この頃、ドイツに招かれた筑前琵琶の人間国宝山崎旭翠と、ヨーロッパ各国を旅行、

昭和天皇没・1989＝78歳：エレベーターのある新宿のマンションに転居するが、体調を崩して入退院することが多くなり、

バブル崩壊・1992＝81歳：集大成となる国立劇場での{鶴田錦史 琵琶の会}は、右手が利かなくなっていたため歌のみとなり、

55年体制終・1993＝82歳：なお*車椅子に乗りながらも、松本での{サイトウ・キネン・フェスティバル}に出演し、「琵琶劇唱〜鶴田錦史の世界」をレコード吹込み、国立劇場琵琶鑑賞会での「鉢の木」の演奏を最後に、脳梗塞で倒れ、

オムニバス事件・1995＝84歳：療養と入退院繰り返したのち、没した。

佐宮圭「さわり」、